

令和5年度未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会(小学校英語)
兼 小学校英語教育推進連絡協議会(概要)

1. 目的

各小学校及び義務教育学校前期課程の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び評価に関する説明・講義を行うことにより、小学校教員の授業力向上に資する。

2. 主催 大分県教育委員会

3. 日時 令和5年5月16日(火)13:30~16:25

4. 場所 別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)中会議室



5. 内容

(1)大分県教育委員会あいさつ <義務教育課 課長 小野 勇一>

- ・「自信を持って英語の授業ができる」と答えた教員の割合は年々上昇傾向
- ・令和4年度県学力定着状況調査から、生徒の「英語がわかる」「英語が好き」の肯定値が下降
- ・本協議会では課題・授業改善の方向についての協議が行われ、楽しい・確実な英語力が身に付くように各地域における実践につなげてほしい



(2)行政説明及び協議 「大分県における外国語科の課題と授業改善」

<説明者> 大分県教育庁義務教育課 指導主事 田代 和馬

<助言者> 別府大学短期大学部初等教育科 教授 大田 亜紀 氏

○大分県の英語教育の現状から見える課題

- ・小中連携したカリキュラムや CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定
- ・中学校2年生の「勉強が好き」「勉強がわかる」の結果に見られる要因分析からの授業改善
(R4 英語教育実施状況調査/R4 大分県学力状況調査 質問紙より)



令和4年度の中学校2年生は、小学校で初めて「外国語科」の授業を経験した生徒たちであることから、小学校で付けたい力を確実に育成する必要がある。

○R4 小学校英語教育推進校における児童の英語力の現状

民間テスト(英検 ESG)の結果から、小学校英語教育推進校における児童の英語力は向上しているが、得点率が低かった問題から、以下の課題がうかがえる

読むこと	書くこと
アルファベットの大文字・小文字を見て、その名称を発音できるようにすること。 (「読むこと ア」)	・アルファベットの大文字・小文字を正しく書くこと。 ・語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句等を書き写すことができるようにすること。 (「書くこと ア」)
音声で十分に慣れ親しんだ語句等について、掲示やパンフレット等から自分が必要とする情報を得るなど、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読む。 (「読むこと イ」)	英語で書かれた文やまとまりのある文章を参考にして、その中の一部の語(一文)を自分が表現したい内容のものに置き換えて、文や文章を書くことができるようにすること。 (「書くこと イ」)



【令和5年度 小学校英語教育推進校の公開授業において】

- 言語活動を仕組み、その言語活動を評価する評価規準を明確に設定すること。
- 単元末の言語活動において期待する児童の姿を設定すること。

(3)協議

- ・言語活動のゴールを設定する上で、児童の達成された姿を描く
- ・評価規準の設定…児童が意欲的になるようなゴールを設定する
- ・児童の表現内容を評価するために、目的・場面・状況を設定する

→そのために
どんな指導を？



(4)講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと評価」

<講師> 別府大学短期大学部初等教育科 教授 大田 亜紀 氏

○言語活動を通じた資質・能力の育成

- ・聞くことができるようにするために、聞きたくなるような楽しい授業づくりを進める
- ・英語で話したことは日本語で補わないようにし、例示したり、具体物で示したりする。



○音と文字を関連付けて指導する。

生徒の「英語が好き」の肯定値下降
読む・書くが小学校英語に導入されたことも関係している

○CAN-DO リスト形式による学習到達目標は作成して終わりにしない。自立した学習者の育成のためにも、児童と共有する。

○「意味がわかる」ようになるための過程

慣れ親しむ→語句や表現を見る→音声化・推測して発音→語句や表現の意味がわかる

○小学校の「読む」「書く」は丁寧に・細やかに指導する。

○言語活動をする上で、コミュニケーションの目的・場面・状況を設定する。

- ・児童の興味関心を高める内容や、身近な場面を工夫する。(学習指導要領解説 p. 171)
- ・目的・場面・状況に合わせて、児童に自己選択・自己決定をさせる

○単元の目標達成につながる言語活動を設定し、期待する姿から評価規準を明確に設定する。

「読むこと」「書くこと」の授業実践例

読むこと	書くこと
<p>○友だちが作ったパンフレットを読む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、教師が作ったパンフレットを一緒に読む活動から始め、学習意欲を高める。 ・友だちが作ったパンフレットを読む際は、パンフレットの魅力を見付けながら読むようにする。 ・見付けた魅力を付箋に書いて、友だちに伝える。 <p>※付箋に書かれた内容を教師が評価する。</p>	<p>○音声で十分に慣れた親しんだ語句や表現を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい言葉をムリに英語で書かせるようにせず、写真やイラストで代用する。 ・学習支援ソフトで書いて練習・添削する。 ・語と語の間を空けて書く単語カード、教具、そのまま書き写せる4線シートなどの準備

○評価規準について

- ・ねらったことを評価する。
- ・思考・判断・表現の評価を行う上で、コミュニケーションの目的や場面、状況を明確に設定する。
- ・「B おおむね満足できる状況」における児童の姿を具体化して設定する。
- ・「読むこと」においては、評価するために言語化し、学習状況を表出させることが必要。

○学習評価のポイント

◎明確な評価規準を設定し、到達したかを見取ることが大切

- ・言語活動において、本当に学んだ知識が使えているのかを見取ること。
- ・指導する責任を果たすため、評価の結果を教師の指導改善に生かすこと。
- ・指導した結果の責任を果たすため、評価の結果を児童の学習改善につなげること。